

**消防団員募集中**★十八歳以上の男女で心身ともに健康な方で荏原消防団管轄区域内に居住又は勤務されている方。お問い合わせ先：荏原消防団本部TEL090-4704-4544

## 総合震災消防訓練

―内容を事前に知らせない  
ブライインド型訓練―  
**早朝 震度7の地震発生**

「参集訓練」  
平成二十六年十月十八日(土)午前六時に震度5弱及び六時二十分震度7の地震発生を想定して、各分団本部に参集し、団本部に参集状況を逐次無線で報告しました。

「早期災害情報システム活用訓練」  
各分団の情報収集団員は、携帯・スマホで仮想の火災等の災害状況を撮影し、発災後一時間以内に荏原署隊に送信する訓練を実施しました。

「放水訓練」  
団本部より無線連絡を受け、品川区立文庫の森公園に全分団集合しました。訓練は、文庫の森公園の近くの道路で、「豊町一丁目町会」「戸越四丁目町会」の方々も参加し荏原消防署員の的確な指導により、震災放水訓練を実施しました。



第六分団の可搬ポンプ積載車を使用した放水訓練

震災は忘れた頃にやってくると言われます。「いざ」という時に消防団員一人ひとりが、状況に応じて対処していく為のスキルを訓練を通して磨いていく必要があります。(担当 第三分団)

### 荏原各地区で

## 総合防災訓練

荏原各地区防災協議会が主催となつて、町会、品川区、荏原消防署、荏原医師会及び荏原消防団などの協力により防災訓練が各地区で行われました。

### ○荏原第四地区

十一月二日(日)源氏前小学校

秋晴れのもと、各町会から約千三百名の参加者が集まり、三班に分かれて各訓練ブースを回りました。  
各ブースは、①消火器を使った初期消火訓練 ②スタンドパイプを使った放水訓練 ③AED(自動体外式除細動器)を使った応急救護訓練 ④三角巾を使った応急手当訓練 ⑤起震車体験があり、参加者は熱心に受けていました。



初期消火の指導をする団員

後半は、中学生消火隊、区民消火隊など八隊が一斉放水訓練を行い、最後に第七分団が消防操法の模範演技を行いました。(担当 第七分団)



第七分団の消防操法模範演技

### 中延ねぶた祭り

## 消防特別警戒



平成二十六年九月二十日(土)中延商店街を中心に、中延ねぶた祭りが開催されました。ねぶた祭りは隔年で開催されており、本場青森からもねぶたやゲストが訪れ、多くの人で賑わう、中延最大のイベントです。

荏原消防団は、夕方五時から第三分団と第七分団が警戒を行いました。(担当 第三分団)



警戒活動中の団員

## 荏原四丁目夜間消火訓練

第二分団指導支援

平成二十六年七月十二日(土)荏原四丁目町会で午後七時から、夜間消火訓練(参加者六十名)が実施されました。

荏原消防署と第二分団指導支援のもと、照明機材は敢えて使わずに、実際に即した状況設定での訓練でした。消火栓近くにあるスタンドパイプ収納ボックスの資機材を活用して、放水訓練を実施しました。日頃からの訓練で慌てることなく落ち着いた行動がとれており、反省会での意見も活発で住民の共助意識がとて高い町会だと感じました。(担当 第二分団)

### 編集後記

「負けに不思議の負けなし」  
野球解説者の野村克也氏が、自身の著書で使っている「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」の一部です。この言葉は、肥前平戸藩の第9代藩主で、剣術の達人だった松浦静山の「常静子剣談」からの引用だそうです。

勝つときは、不思議な力や理屈では言い表せない要素が働くことがある。一方、負けるときは、必ず原因(敗因)がある。だから、不思議の負けなどないという意味で使い、報道陣の前に試合を総括する、野村氏の顔が今でも目に浮かびます。  
勝つ時も分析・反省を行い、また、敗けたことを看過してはならないのです。私の好きな言葉の一つです。(千葉信昭)

### 広報委員会

委員長	桜井 繁
副委員長	福田 栄人
編集長	千原 信昭
第一分団	古川 信昭
第二分団	坪井 信治
第三分団	東風 志明
第四分団	近藤 友弘
第五分団	安島 文雄
第六分団	栗木 洋子
第七分団	鈴木 直孝
事務局	小出 久雄